

IV-15

新聞報道による交通事故分析

東北大学工学部 正員 ○山崎 克範
 東北大学工学部 大山 進
 東北大学工学部 正員 福田 正

1. はじめに

今や自動車は、日常生活に欠かす事のできない身近な存在となっており、これによってもたらされる様々な恩恵を日々享受している。しかしその一方、交通の発展は交通事故をはじめ、騒音、大気汚染など、様々な社会問題を生み出している事も事実である。なかでも人命に直接関わる交通事故は、我々の日常生活を脅かし、多くの人々が重大な関心を持っている。マスメディアである新聞報道の内容は、その一般社会の交通事故に対する関心を反映しているように思われる。そこで本研究では、新聞がどのような事故に興味を抱き、特に重大事故と見なしているのかなどを把握することを研究目標とし、宮城県を対象として新聞紙上の交通事故記事を統計的に分析した。そして、第1次交通戦争といわれた昭和40年代と最近の新聞報道を比較する事によって、交通事故に対する世論の変化を調べた。

2. 資料及び分析方法

収集した資料は、昭和46年と平成3年の朝日新聞・河北新報である。これらの資料に関してデータベースを構築し、単純集計、クロス集計、数量化分析を行った。その結果を昭和46年、平成3年版の宮城県交通事故白書に掲載されている各項目ごとの集計結果と比較する事によって、交通事故の報道傾向について分析を行った。

3. 報道率による分析結果

表-1 交通事故報道件数

平成3年朝日新聞	176件
平成3年河北新報	354件
昭和46年朝日新聞	259件
昭和46年河北新報	954件

各年度、各新聞の宮城県の全交通事故報道数を表-1に示す。平成3年では昭和46年より全体に

報道数は減少している。また、地方紙である河北新報は、夕刊を発行していることもあり、両年とも報道数は全国紙である朝日新聞より多く、地域に密着した報道を行っている。

社会的に重大事故として捉えられる事故は新聞に掲載されることが多いと考えられ報道率（報道数/全事故数）が関心の高さの基準として挙げられる。各項目について、報道率に特徴の見られた項目を以下に掲げる。

図-1に平成3年、昭和46年の事故内容別報道率を示す。死亡事故の報道率は平成3年にはほぼ100%、その他の事故については2%以下であった。また昭和46年は死亡事故の報道率はやや低い死亡事故重視の報道である事は歴然としている。

図-2に時間別報道率を示す。夜の事故（特に午前0時～3時の深夜の事故）は昼の事故より報道率が高く新聞報道の関心が夜の事故にある事がわかる。

図-3は事故類型別の報道率を示したものである。車両単独事故は高く、次に人身事故、車両相互事故の順になっている。しかし、全交通事故の構成比は車両相互、人身、車両単独の順で、報道の構成比も、その順である。

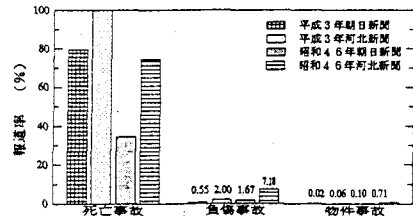


図-1 事故内容別報道率

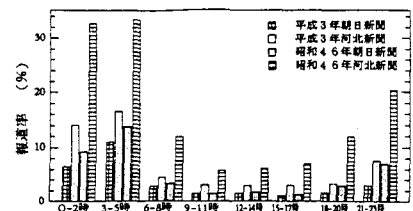


図-2 時間別報道率

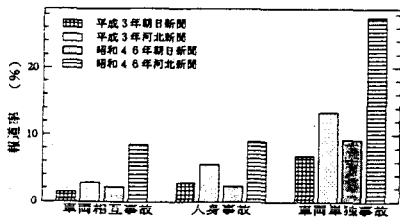


図-3 事故類型別報道率

4. 記事の大きさによる分析結果

新聞の交通事故の記事はそのほとんどが地方版に掲載され、その大きさは小さく、トップ記事として扱われることは少ない。また、その為当日の新聞の他記事の影響を受け易いと思われる。しかし、1年を通してその記事の大きさを集計すれば何らかの特徴がみられると考えられる。そこで、本研究では記事の大きさを社会的関心度の判断基準として捉え、統計的に分析した。

記事の大きさはその記事の行数で考慮した。また、1行の文字数は各新聞各年度でことになったが、全体への影響は小さいと考えられ、記事全体の平均の文字数以外は算出しなかった。以下に、それぞれの新聞の交通事故記事の平均行数、平均文字数を示す。

平均行数では河北新報が両年とも朝日新聞を上回っていた。平均文字数では、現在の事故報道は、過去よりも減少している。

表-2 記事の大きさ

		平均行数	平均文字数
平成3年	朝日新聞	19.26	231.12
平成3年	河北新報	22.91	297.83
昭和46年	朝日新聞	20.54	308.10
昭和46年	河北新報	21.67	325.05

図-4は表-2の記事の大きさを行数別頻度で表したものである。記事のほとんどが20行以下であることが示されている。

次に記事の大きさに特徴的なものがみられた項目を以下に示す。事故内容別の記事の大きさでは朝日新聞は物件事故、河北新報は死亡事故を大きく取り扱っていた。朝日新聞では、物件事故の報道はその特徴的な内容（飲酒、当て逃げ等）として、大きく取りあげられている場合が多い。（図-5）

図-6は事故類型別の記事の大きさを示す。人・自転車対車両事故（人身事故）は他の事故類型より

小さく、社会的関心度は低いようである。

また、昼夜別に記事の大きさを検討したところ夜間の事故の方が大きく扱われていた。

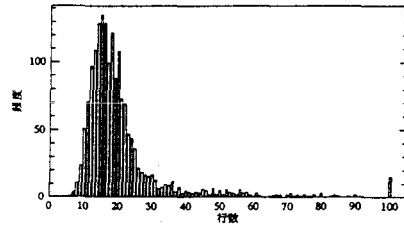


図-4 全交通事故報道の行数別

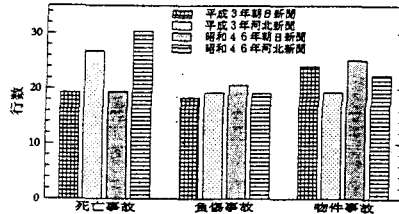


図-5 事故内容別記事の大きさ

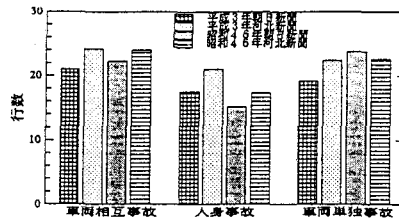


図-6 事故類型別記事の大きさ

5. まとめ

本研究は、一般社会が重大事故と捉える事故を新聞報道の傾向によって調べてきた。得られた結果を総括すると以下の通りである。

- ①全交通事故のうち新聞で報道されることが多いものは死亡事故・夜間の事故・車両単独事故であった。
- ②新聞に大きく報道される事故は、各新聞によって異なる場合もあるが、事故内容では死亡事故、時間別では夜間の事故、また事故類型では車両相互事故・車両単独事故などは大きく掲載され、逆に人身事故は小さく掲載される傾向にあった。また現在では、全般に交通事故の報道数は減少し、以前より死亡事故重視の報道になっている傾向がある。

《参考文献》

- 1)宮城県警察本部交通部：みやぎの交通事故（3年度）
- 2)宮城県：交通事故統計（昭和46年度版）
- 3)総務庁編：交通安全白書（各年度版）